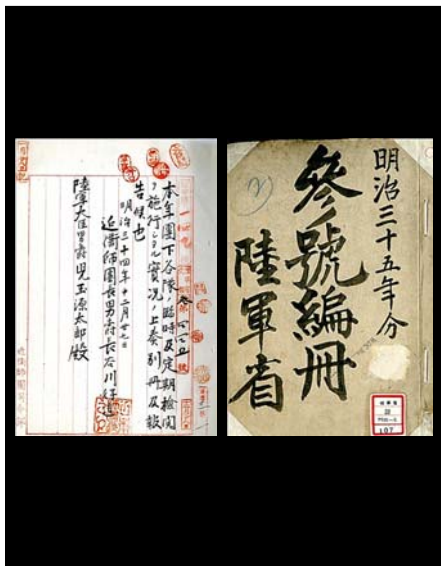


平成 24 年度は、歴代陸軍参謀総長及び海軍軍令部長の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物の関連史料を紹介しています。

《 ^{はせがわ よしみち}長谷川 好道 1850～1924年 《
—第一線兵団長として日清、日露戦争を戦った名将—



臨時及定期検閲施行実況の上奏別冊及報告

(登録番号：大日記—陸軍省—雑—M35—5—107)

長谷川好道元帥は、明治4年に陸軍大尉に任官、その後、歩兵第12旅団長、第3師団長、近衛師団長、参謀総長等の要職を歴任しました。この史料は、当時近衛師団長であった長谷川好道中將が陸軍大臣児玉源太郎中將に報告した明治34年12月27日付の「各隊ノ臨時及定期検閲ヲ施行シタル實況」です。このなかで、「教練検閲ハ各個教練ニ重キヲ置キ基礎ノ教育確實ナルカ為メ部隊教練ニ至リテハ其成績概シテ良好ナリ」、「射撃指揮ニ關シテハ益々研究進歩ノ道ヲ講スヘキ」ことなどが報告されています。この報告から2年3か月後の明治37年3月、近衛師団長として日露戦争に参戦した長谷川中將は、鴨緑江会戦や遼陽会戦などで武勲をたて、後に功一級金鷄勲章を受章しました。



師團増設の件 (登録番号：陸軍省—軍事機密大日記—T2—2—2)

この史料は、長谷川元帥が参謀総長（当時大将） 同時に陸軍大臣楠瀬幸彦中將に照会した大正 2 年 7 月 31 日付の「師團増設ノ件」です。明治 40 年制定の「帝国国防方針」で、平時所要兵力を 25 個師団と決定した陸軍（当時 19 個師団）は、朝鮮防備のため 2 個師団の増設を政府に要求します。しかし、日露戦争後の財政難などの理由でこの要求が実現しないなか、「国防ニ要スル兵力ニ關シテハ豫テ及内議候通りニシテ今ヤ四圍ノ形勢益々之ヲ完備スルノ必要ヲ認メ」、先ずは「朝鮮ニ二箇師團ヲ設置スル為年割ヲ以テ其ノ實施ニ着手ス」ことを陸軍大臣に照会しています。2 個師団増設に伴う陸軍予算案は、第一次世界大戦が勃発した大正 3 年の翌年に可決されます。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「お知らせ」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断引用はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課
専用線：8-67-6522、6588（史料紹介コーナーのみ6668）
外線：03-3713-5912
FAX：03-3713-6149 E-mail：nidsnews@nids.go.jp
※ 防衛研究所ウェブサイト：http://www.nids.go.jp